鳩

原民喜

青空文庫

鶉居山房と私とは路傍に屈んで洋服屋の若旦那を待ってゐた。別に用事なんかなかったのだが、待ってゐるうちに帰るのがめんどくさくなった。若旦那は今朝から留守なのださうだから、なかなか帰っては来まい。そこの通りは人通りも稀れで静かだった。私達は煙草を吸ってぼんやりしてゐた。その時学校から帰る二人連れの小学生がすぐ側を歩いてゐた。そして、小学生の肩の辺に鳩がたまたま飛んで来た。すると小学生は帽子を脱いで鳩を掬はうとした。鳩は大きな羽ばたきを残して屋根に舞上った。即ち鶉居山房はからからと※(わら)ひ出した。「蝶々ぢゃあるまいし、わーい、わーい。」と彼が嬉しがると、小学生はてれてしまった。これで私達は洋服屋の若旦那に逢はないで帰れる機運が生れた。ところが翌日、その洋服屋は何処かへ夜逃げしてしまったのだった。

私が洋服屋の若旦那に逢へたのは、それから四五年後のことだった。ひどい春雨が降りまくる日、思ひきって彼を訪れてみると、彼はアパートの六畳で運のよくならないのを喞ってゐた。「早い話が、君。」と彼は云った。「この部屋だって屋根が漏るんだからね。」と、彼が天井を見上げると、ひどい降りが亜鉛屋根にあたる音とともに、ぽたぽたと畳に落ちて来る。暫くの間、さうして彼は怨しげに天井と畳を見較べてゐたが、不図雨が漏らなくなったのに気づいた。

「おや、こいつは変だな、たしかに今雨は降ってゐるのだがね。」

彼が訊ねるまでもなく亜鉛屋根は烈しく鳴ってゐた。

「すると、大きな鳥でも来て屋根に留まったのかな。」さう云って彼はひょいと晴やかな顔をした。

青空文庫情報

底本：「普及版　原民喜全集第一巻」芳賀書店
　　1966（昭和41）年2月15日初版発行
入力：蒋龍
校正：伊藤時也
2013年1月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鳩

原民喜

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/